

まずは、エコドライブに取り組もう！

事業規模に関わらず、「環境問題」への取り組みは、今や避けることのできないテーマです。盛岡商工会議所では、平成20年に環境行動計画を策定し、環境問題への啓発と温暖化防止への取り組みを積極的に進めてきました。その一つが、昨年実施した「CO₂削減コンテスト」。

今回は、同コンテストで最優秀賞を受賞した東日本機電開発株式会社の活動事例と共に、誰もがすぐに始められるエコドライブについて紹介します。

月ごとの変動経費や

CO₂排出量を全体会議で報告

昨年6月から11月まで、6カ月間行われた第1回「CO₂削減コンテスト」。これは、事業所における対前年同期比のCO₂排出量の減少率と取り組み内容を審査するものです。コンテストに参加した27事業所の中で最優秀賞を受賞したのは、盛岡市手代森にある東日本機電開発（株）の「エコカツ」プロジェクトでした。

昭和46年の設立以来、上・下水道をはじめ、あらゆる分野における電力供給機器やシステム開発を行う機電事業を中心に発展してきた同社。平成15年には環境事業部を立ち上げ、家畜の糞尿処理施設的设计施工や有効

活用のためのコンサルティング、特殊肥料の製造販売など、事業としても環境問題に取り組んでいます。

今回のCO₂削減コンテスト参加について、活動をとりまとめた総務部・佐藤良さんに詳細を伺いました。

「ちょうど社内でも変動経費抑制の取り組みを進めていたので、より徹底した活動を無理なく進められました。ガソリン代等の消耗品費は変動経費に占める割合が大きく、会社全体の計画にCO₂削減の目標を組み込んだのです。取り組み内容は、昼休みのこまめな消灯をはじめ、必要のないパソコンのモニター電源を切ったり、残業を早めに終え皆一緒に帰るように呼びかけるなど、地道な行動の蓄積です。また、当社では社用車が12台あり遠方出張も多いので、エコドライブも積極的に心がけてもらいました」。

肝心なのは、これらの取り組み実績や数値の経緯を、毎月行う全体会議で報告したこと。社員全員が数字を確認し情報を共



「今回、現状を集計してまとめること、皆に見せることが思った以上に大事だと実感した」と佐藤さん。

有したことで、会社の現状を一人ひとりが把握でき、削減のポイントがより明確になっていったのではないかと、佐藤さんは振り返ります。数値で見ると、ガソリンに比べ軽油は特にCO₂排出係数が高いのだとか。それに対し、原料部門主任の阿部敏彦さんから、軽油の使用量削減に関して次のような提案が出てきたそうです。

協力会社も巻き込んだ現場からの提案

「原料担当者として、変動経費をどうすれば安くできるか、以前からの課題でした。当社製

同社では以前から、月1回全体会議が行われており、プロジェクト「エコカツ」にとっても情報共有の大切な場となりました。





「今回は、利益面から考えて、CO₂削減の取り組みにリンクさせました。さらに数字を下げるのは一苦勞ですが、まだまだ可能性を見つけていきたい」と阿部さん。

品の製造工程では、遠方にある協力会社に製造委託しているものがあり、その製品検査や引き取りは、これまで自社便を使用し専門スタッフが検査に赴いていましたが、コンテスト参加を機に、その検査部分を協力会社に委託することを提案しました。それによって自社の回数が減り、CO₂削減という今回のコンテストの取り組みにもつながる。協力会社も、自社工程の調整によって製品完成にいたる輸送距離を減らすなど、業務の効率化につながっています。もちろん製品の品質に関わることで、チェックシートや検査資料などを万全に準備したうえで社内でのしくみを変え、今は徐々に外部委託の流れができてきたと阿部さんは話します。

エコドライブの実践

同社のコンテスト対象期間6カ月の報告値をみると、軽油使用量は3126リットル。その前年度同時期比31.23%減となっており、社内では大幅なCO₂削減につながったことがわかります。現状の数字が見えることで現場からの提案が生まれ、CO₂削減と共に成果につながったといえます。

「総務からの呼びかけや数値の報告によって、現場でもCO₂削減やエコに取り組む意識に変化が感じられました。こまめなエコドライブの成果も大きい。例えば、全体会議で司会者がアクセルの踏み方等エコドライブの仕方を具体的に話してくれたことで、皆、普段の運転を見直すきっかけになったし、回転数を意識的に落として運転するようになった。ガソリン代削減の話題も自然に増え、細かな対策を個々が考える空気ができてきたように感じます」と、阿部さん。

誰でも気軽に取り組みる「エコドライブ」って?

同社では変動経費の削減に力を入れた結果、対前年比で18.7



数年前、環境事業を経営のもう一つの柱として立ち上げた同社。「自社でエネルギーがどう使われているかを知ることが、事業の方向性にも大きく関わってくる」と水戸谷社長。

%のCO₂を削減。その一つとして取り組んだエコドライブは、業種や規模に関わらず誰もが始められるものです。岩手県におけるCO₂排出量(平成18年)を見ると、運輸部門のCO₂排出量は全体の約21%。企業や個人を問わずエコドライブに取り組むことで、CO₂削減効果が大きく期待できます。

では、エコドライブとは、一体どのようなものでしょう。それは、「環境に配慮した自動車の使用」のことです。エコドライブ普及推進協議会では、運転のしかたに関して10のポイントをあげています。まずは、①ふんわりアクセル『eスタート』。最初の5秒で約20キロを目安に発進するだけで、11%程度燃費が改善するのだとか。他には②加減速の少ない運転③早めのアクセルオフ④エアコンの使用を



第1回 CO₂削減コンテスト受賞企業

最優秀賞	東日本機電開発(株)
優秀賞	川口印刷工業(株)
	(株)東亜電化
	相光電気(株)
努力賞	みちのくコカ・コーラボトリング(株)
	(株)川徳
	(株)藤村商会
	(株)事務機商事
	東日本電信電話(株)岩手支店
	(株)みちのく冷熱
審査委員特別賞	(株)三田商店

平成21年6月～11月に実施された同コンテスト。CO₂排出量減少率の量的基準と共に、環境に配慮したユニークな取り組み等、質的基準面から審査し、3月26日に受賞11企業の表彰を行いました。

控えめにする⑤アイドリングストップ⑥暖機運転は適切に⑦道路交通情報の活用⑧タイヤの空気圧をこまめにチェックする⑨不要な荷物は積まずに走行する⑩駐車場所に注意する等、どれも難しいことではありません。個々のやる気次第で、確実に成果が見える取り組みなのです。

まずは気軽にCO₂削減コンテストに参加を!

さて、6月から第2回目のCO₂削減コンテストがはじまります。企業として環境問題に取り組む意義について、前述の東日本機電開発(株)代表取締役社長・水戸谷剛さんは、こう話してくれました。

「まず、自社がエネルギー投入している量を把握することが大事。それを記録することで、

会社全体に対し「見える化」をする。そこからCO₂削減や経費削減のポイントをつかみ、対策の効果も把握できます。今回は、現場から具体的な提案があがってきたことに大きな成果を感じます。こうした取り組みは決して派手ではないが積み重ねが大切。上からの指示ではなく、社員一人ひとりが自主管理する意識を持つことで、私たちが経営理念の一つに掲げる「社会的共通資本の充実に貢献」の基礎にもつながっていくと考えています」。

環境問題に関わる第一歩として、ポイントが明確化されているエコドライブは、実践しやすい活動課題といえます。まずは、自社のエネルギー投資を「知る」ため、CO₂削減コンテストに参加してみませんか。